

て、道路インフラ構築技術の重要性や、最新の研究開発の社会的意義について理解を深めた。

生徒たちは、施設の概要と最新技術の実証内容について説明を受けた後に、テストコースで新しい舗装技術の耐久性実証の取り組みを学んだ。トラックヤードでは自動運転荷重車を間近で見学し、大型トレーラーを使った荷重試験の耐久性評価での使われ方、試験を安全に実施するために自動運転技術が導入されていることも学習した。

福島の中学生在が舗装 テストコースを見学

大成ロテック

大成ロテックは、福島県田村市にある大成建設グループ次世代技術実証センターで職場見学会を開いた。同市立船引中学校の2年生23人が参加し、舗装耐久実験を行うテストコースの見学などを通じ



トラックヤードの前で記念撮影

見学会を通じて、道路が環境配慮と耐久性を考慮した材料や設計・施工技術で構築されていることに驚きの声が上がった。低炭素化や舗装の長寿命化を目指す技術が、環境負荷低減や道路安全性にどのように貢献しているのかも学び、最先端技術の実証が新技術の社会実装に向けて重要とも理解した。「普段使っている道路が環境への配慮や耐久性を考慮してつくられていることがよく分かった」との感想も寄せられている。

同社は、未来の技術者を対象にした環境配慮と革新的技術の重要性を伝える教育的な取り組みを継続し、地域社会との連携を強化していく。

